

医療法人財団 友朋会 嬉野温泉病院

- 02 創立47周年記念式典／地域美化活動 03 精神科デイケアは、“リハビリセンターほほ笑み”へ
04 地域連携室通信 05 第15回アートセラピー美術館祭 06-07 就労支援センター「希望」に喫茶部門が加わりました！
08 「第1回 佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会」を開催して 09 西ブロック合同ハイキングを実施して
10 平成23年度作品展示会を振り返って 11 Dr's コラム／New Face 12 診療担当医師一覧表・友朋会の理念



創立47周年記念式典

平成24年4月7日(土)に当会の創立47周年を記念する式典が開催されました。当日は谷口嬉野市長をはじめ多くのご来賓の方々にご出席いただき、ありがたいご祝辞をいただきました。また、永年勤続職員(10年勤続、20年勤続、30年勤続)に対し理事長より表彰状が送られました。そして、当記念式典の恒例であります勤続15年の職員が壇上にて意見発表を行いました。笑いあり、涙ありのすばらしい意見発表でした。



30年勤続の皆さん



20年勤続の皆さん



意見発表の模様



10年勤続の皆さん



勤続15年意見発表の皆さん



地域美化活動



院内行事委員会地域美化・ボランティア活動部門 委員長 石橋 節子

平成24年4月7日(土)、地域美化活動を実施しました。当日は、やや肌寒かったのですが晴天に恵まれ、活動を行う事で体温も上昇し、気持ち良く活動することができたと思います。参加者は私共友朋会の他に三友商事様、友悠会様、ユーオス様、日清医療食品様の御協力もあり、総勢347名で活動しました。例年同様、嬉野町内の歩道および公園内の清掃を実施することができましたが、嬉野町内の歩道や公園内のゴミは殆どなく、主に除草作業や落ち葉掃きなどを実施しました。1時間程度の活動時間でしたが、79袋のゴミを収集することができました。限られた時間ではありましたが、職員一人一人が地域に根ざした病院作りの一環としての美化活動という目的意識をもち活動する事が出来ました。今後も地域美化活動やボランティア活動を通し、少しでも地域美化に貢献していきたいと思ひます。



精神科デイケアは、“リカバリーセンターほほ笑み”へ

4月より、当センターは「精神科デイケア」という従来の呼び名から、「リカバリーセンターほほ笑み」へと新しく変わりました。

この紙面をお借りして、今回、名称変更へと至ったいきさつと、現在の当センターにおける取り組みや、今後のあり方について述べさせて頂きたいと思えます。

本山師長の「精神科」という言葉を外し、新たな名称を考えてはどうか」というアイデアのもと、利用者のニーズ調査と併せ、名称変更についてアンケートを取らせて頂いたところ、「精神科」とつくことで自分は病気なんだと感じる」「可能なら精神科」という言葉は取り除いて欲しい」という意見が多数寄せられました。

そこで、利用者の“リカバリー”への願いと共に、名称について希望が多かった「笑顔」にまつわる言葉の中から、“ほほ笑み”という言葉のひとつにし、当センターは“リカバリーセンターほほ笑み”へと変更となった次第です。

近年、リハビリテーション領域では「利用者主体」が原則とされており、当センターにおいても今年度より“リカバリー”や“ストレングスマデル”という考えに加え、“利用者主体”を推進しています。どうしても私たち医療者は、障がいを抱える当事者の問題ばかりに着目し、結果として過剰に手を差し伸べてしまうなど管理中心的対応となりがちですが、障がいもその方の個性として捉え、自分達と同じく地域で生活を送るひとりの人間として尊重し、また、担当スタッフと利用者本人が共にケアプラン(病棟における問題リスト・看護計画に該当)を作成し、支援の内容を自己決定できるよう配慮しています。

本年度より、疾患別の診療計画書が作成されていなければ、診療報酬の減額という実質上のマイナス改定がなされ、病棟における病床機能分化と同様、デイケアにおいても従来の統合失調症モデルからの脱却、すなわちこれまで以上に疾患や年代別といった小集団を意識した個別プログラムの再構築が求められています。そのような背景をふまえ、当センターにおいても以下の新しい活動プログラムを開始しました。

- ・心理教育・WRAP(元気回復行動プラン)を取り入れた「疾患教育」
- ・当事者同士が悩みや不安を共有し、お互いにサポートし合える「ピアグループ」
- ・楽しく身体を動かしダイエット「ダンスサークル」
- ・復職はもちろん、これから就労を希望されている方への「就労支援」

精神医療を取り巻く現状は日々変化しており、入院にかかる診療報酬のマイナス改定や、平成16年から続く精神科病床削減問題などにより、今後ますます精神科リハビリテーション領域、すなわちデイケアを主体とした外来部門へ期待されることは大きいと思われれます。

そのような時代の流れに柔軟かつ即座に対応したデイケア・ナイトケアサービスが提供できるよう、今後も卒に捉われない活動によって実践していきたいと思えます。

リカバリーセンター 小池 隆之

ほほ笑み

※ この字は、書道の師範を持つ当センターの利用者が書かれた物です。

地域連携室通信

若葉青葉をわたる風も快く感じられる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか？

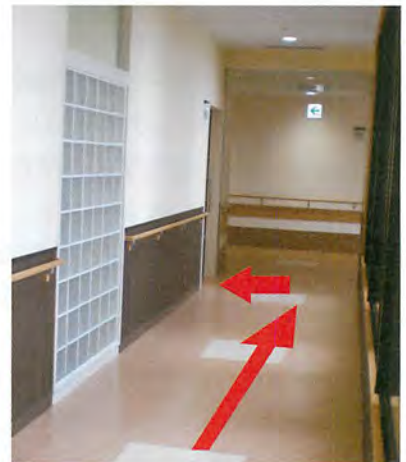
精神科地域連携室も、新西外来棟の2階へ移転し、平成24年1月30日より心機一転で稼働しております。また4月からは室員が1名増員となり、計4名体制となりました。これまで電話対応が追い付かない等ご迷惑をおかけしておりましたが、これまで以上に地域の皆様や関係機関の方々からの受診・入院相談等に対応させていただきたいと思っております。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、新西外来棟へ移転して早4ヶ月が経過しておりますが、患者さまから「移転後、部屋はどこね？」「どこに相談に行ったらいいと？」等の声をいただくことがあります。今回は改めて新精神科地域連携室について紹介させていただきます。

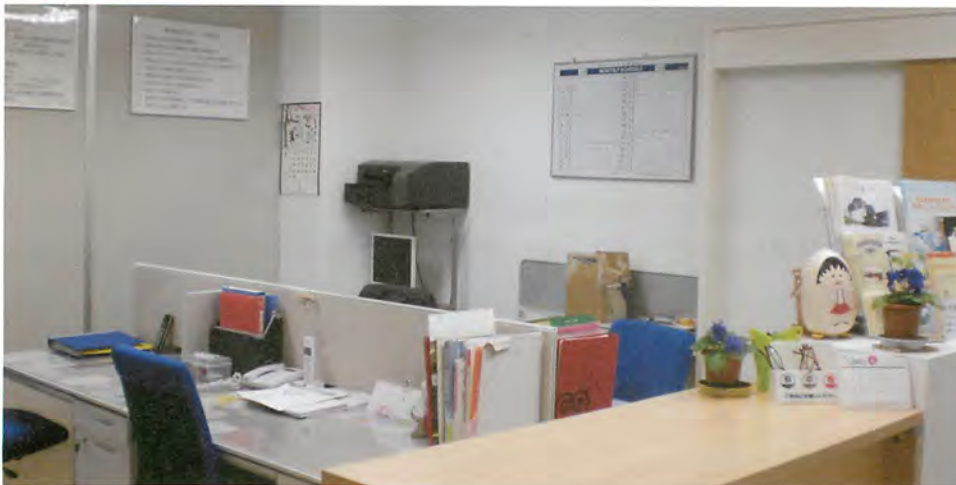
1.総合案内付近



2.精神科地域連携室付近



3.精神科地域連携室内



精神科地域連携室では、ソーシャルワーカーの常駐化に努め、受診・入院相談、経済面・生活支援・就労面等のご相談の窓口となり、対応させていただいております。精神科地域連携室に隣接する面談室もご用意しております。何かございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

* 精神科地域連携室からのお願い *

精神科外来では患者さまやご家族の初診時の負担を少しでも軽減できるように診察の予約制を取り入れております。ご家族やお知り合いの方が精神科外来の受診を希望される場合、まずは精神科地域連携室までご一報をお願い致します。(内線:1024、1025)

作成者:諸隈望・山崎二美 作成責任者:正司吏臣

第15回アートセラピー美術館祭

運営委員長 中村志保美

第15回アートセラピー美術館祭を、平成24年3月13日(火)に執り行いました。

今回は、国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、精神保健計画研究部の竹島正先生のご紹介により、オーストラリア在住のオイゲン・コウ先生をお招きし、特別講演を開催する機会を得ました。先生は、当病院にあるアートセラピー美術館と同じように、オーストラリアで精神障害者のアート作品を管理・展示している美術館の館長であり、精神分析的心理療法を行う精神科のDrです。アートが、いかに精神保健に役立つのか、「アートで進めるメンタルヘルスコミュニケーション」という演題の貴重な講演を聴かせていただきました。参加された125名の皆様は、精神障害者への理解が深められたのではないのでしょうか。私達スタッフ一同、これからもより一層患者さまの支えとなるよう頑張りたいと思いました。





就労支援センター「希望」に 喫茶部門が加わりました！ ～「oliveカフェ&ギャラリー」～



平成24年2月から新外来棟1階で院内喫茶として運営しておりました「oliveカフェ&ギャラリー」が、4月からは就労支援センター「希望」の喫茶部門として運営していくことになりました。「希望」は就労移行支援及び就労継続支援B型多機能型事業所として登録を行っており、今後は生活支援員が2名と事業所利用者の方で喫茶「oliveカフェ&ギャラリー」を運営していくこととなります。

現在は3名の方が「olive」で就労訓練中です。生活支援員を含めてまだまだ慣れない状態でご不便をおかけすることもあるかと思いますが、友朋会職員だけではなく、外来患者さま、面会に来られたご家族さま、さらには地域の皆さまにも広く利用して頂きたいと願っております！

尚、ご意見・ご感想も承っております。皆さまのお越しを心からお待ちしております！



レギュラーコーヒー100円



カプチーノ 200円



本格エスプレッソ150円



ホットドッグセット400円(単品250円)



少しメニューの紹介です!!
他にも沢山ありますので是非ご来店下さい!!



ハヤシライス500円(スープ付)



テリマヨライス500円(スープ付)



「第1回 佐賀県かかりつけ医認知症対応力向上研修会」を開催して

報告者: 友朋会認知症疾患医療センター 廣瀬 千鶴

平成24年3月6日、鹿島市生涯学習センターにて認知症疾患医療センターとしては初の研修会を「鹿島・藤津地域リハネットワーク研究会」との共同で開催し、180名の方々に参加して頂きました。

メインテーマを「認知症疾患と地域連携の実際」とし、熊本県にある平成病院院長の坂本眞一先生に「熊本県地域拠点型認知症疾患医療センター ～これまでの活動内容と今後の課題～」の演題で講演して頂きました。具体的な取り組みや事例を通し分かりやすく紹介して頂き、参加者からはもっと詳しく話が聞きたかったと好評でした。

次に熊本県宇土市の地域包括支援センターの主任介護支援専門員の宮下麻衣子氏から「認知症の方を地域と共に支えるために」の演題で、地域で支える仕組みやネットワークづくり、チームアプローチの実践例を紹介して頂きました。医療機関と地域包括支援センター、違った立場での講演で双方の考えや取り組みが聞け、「地域連携」のあり方や大切さを学ぶことのできた研修会となりました。



友朋会では平成23年12月1日より「認知症疾患医療センター」が設置されました。認知症の方が、住み慣れた地域や自宅で安心して暮らすことができるよう、認知症の早期診断から適切な介護まで、医療と介護の連携を行いながらご本人と家族を支援することが目的です。

研修会の開催は認知症疾患医療センターの必須事業となっており、かかりつけ医や介護関係者等を対象に認知症に関する研修会を開催する義務があります。今後も皆さんのニーズに応えられるようなテーマで企画していきたいと思っております。

皆さんからの要望やアドバイス等がありましたら、認知症疾患医療センターへ是非ともご連絡下さい。参考にさせていただきたいと思っております。

西ブロック合同ハイキングを実施して

作業療法士 吉岡聡子

平成24年4月27日に嬉野温泉病院、西ブロック合同ハイキングを実施しました。昨年は雨天の為中止となり、今年も天候が危ぶまれましたが、見事当日は晴天となり、気持ちよく実施することができました。参加者は患者様・スタッフ合わせて約160名で、場所はみゆき公園でした。道の途中美しく咲いた藤棚を愛でながら歩きました。

公園に着くと、まず宝探しゲームを実施しました。参加者はグラウンド内に隠された封筒を探しにいき、中身を書いてあるクイズの答えを参加者同士で考えてもらいました。皆さん、熱心に答えを考え、当たると喜んでおられました。昼食のお弁当も豪華なものを栄養管理科の方で用意して頂き、青空の下おいしく頂きました。午後のレクリエーションもソフトボールやグラウンドゴルフ、ミニバレー、テニポンなど様々なものに参加され、身体を動かしておられました。普段は患者さまの診察や看護をしているスタッフも「まるで部活みたいだね」と言いながら、一緒に汗をかいていました。車椅子で参加された患者様もレクリエーションを見学したり、散歩やシャボン玉を楽しんだりとされており、日頃外出が少ない中、今回はゆっくりと屋外の空気を吸うことができ、普段よりも表情が明るくみえました。帰りは参加者同士「暑いね」と言い合いながら、手を取り合って病院まで帰りました。今回のハイキングを通じて、患者さまやスタッフといった枠を超えて、一緒に汗をかき、気持ちを共有しあうことができたのではないかと思います。今後も患者さまが楽しめる行事をOT一同でアイデアを出し合い、提供していければと思っています。



平成23年度作品展示会を振り返って

ものわすれメンタルクリニック 看護師 主任 岩崎誠子

今回、作品展示会は11回目を迎えました。利用者さまやご家族など106名の方に参加して頂きました。利用者さまへの思い等を伝える事ができるよう各スタッフが意見を出し、準備も少しずつ改善し比較的スムーズに準備、実施することができました。

利用者さまの芸術療法の作品はもちろんですが、行事等でスタッフが取り組んできた寸劇やゲーム等もより伝わりやすくなるように、写真やコメントを増やしました。4階の外来では、休憩と語らいの場としてお茶コーナーを準備し、昨年好評であった利用者さまの日頃の活動や行事の様子の写真をスライドショーにして見て頂きました。利用者さまやご家族がお互いに挨拶をされ、交流が深められていました。また、介護相談では、日頃の悩みを相談する事で今後の介護への負担の軽減や励みにもなったのではないかと思います。

作品展示会は、スタッフがご利用者さま、ご家族と一緒に作品について話ができ、日頃の様子や心の動きなどを知って頂く最もよい機会である。また、利用者さまのご自宅での様子をお聞きすることができ、交流や信頼関係を深める良い機会になると思われます。●自分が作陶したものが並んでいるのを見て涙を浮かべていました。●一緒に参加して良かったと思います。

●日頃どんな事をしているのかを知る機会になり、本人達の励みにもなり、他の利用者の方達との交流も図れてとても感謝しています。といったお言葉をアンケートの回答より頂いております。また、まるで美術館へ出かけ作品を見ているような雰囲気の中で、見学して頂ける方が増えたように思われました。認知症の方の作品という捉え方ではなく、芸術として作品を見学されており、認知症や芸術療法への理解が深まっているようです。

オイゲン・コウ先生が「精神疾患を有する人の理解のために芸術作品を活用する」と述べられていましたが、デイケアでの作品展示会でもそれが実践されていると考えております。

今後も認知症の方へのご理解と芸術療法の理解が深められるように取り組んでいき、さらにより良い芸術療法を目指して研鑽していきます。協力して頂いた方々や参加して頂いた方々に感謝いたします。



おしっこ大丈夫ですか？

「あなたはおしっこ大丈夫ですか？」という質問をすれば多くの方は“もちろん大丈夫です。”と答えられるでしょう。ある日突然真っ赤な血尿や排尿時の強い痛みなどがあれば受診されるでしょうが、それらの強い症状がなければなかなか泌尿器科を受診される事はないでしょう。しかし問題がない、ふつうのおしっこ(排尿)とはどんな事でしょうか？

大まかに言うと①前回の排尿後しばらくは尿意がなく、②尿意を感じてもしばらくは排尿を我慢できて、③排尿しようとするまで漏れることがなく、④排尿しようとしたら直ちに排尿が始まり、⑤ある程度以上の勢いで、長時間をかけずに排尿が終了し、⑥排尿後はまたしばらくは尿意を感じる事がない。何気なく行なっている排尿も文章で表すとこのようになります。もしいずれかでも異常を感じられたら一度は泌尿器科に相談されたほうが良いでしょう。

これを読まれている方々の多くは大丈夫かもしれませんが、高齢の方で特に介護や看護を受けられる人の中には男性、女性にかかわらず何らかの普通でない排尿の方がおられます。その方々の症状で最も目立ちやすいのが尿漏れ(尿失禁)で、その結果『オムツをしましょう』となってしまいます。ひとたびオムツを着けてしまったら、濡れたオムツの重さを量ることで、一日あたりや時間あたりの排尿量はわかるかもしれませんが、どれくらいの異常な排尿であるのかはほとんどわからなくなります。何らかの異常(前立腺肥大症や過活動膀胱など)が原因の尿失禁で治療により改善できる異常であっても、それ以降はずっとオムツを続けなくてはならなくなります。また異常な排尿状態のまままで頑張っておムツ外しを試みても、うまくいかずに看護・介護をする側もされる側も肉体的・精神的に非常に悲しい結果となってしまっています。

自分自身だけでなく、身の回りの人や看護・介護で接する人も、“おしっこがうまくいかない”時には、どこがどのようにうまくいかないのかを考えて専門家に相談してみてください。もしオムツを着けている人やこれから着ける場合には一度は短時間毎にオムツの濡れ方を調べてみてください。普通でない排尿だったら、それを改善する事で効果的なオムツ外しにつながるかもしれません。

おしっこは生きている限り避けては通れない行為です。おしっこごときで悩まされない人生のお手伝いを泌尿器科医は目指しています。

泌尿器科 倉富一成

😊 NEW FACE!



精神科医
ふじまきみつのり
藤巻光啓

平成24年4月から精神科医として嬉野温泉病院に勤務させて頂く事になりました藤巻光啓です。佐賀大学医学部を卒業後、同大学の精神神経科に入局し現在精神科医としては4年目になります。医療は医師だけでは成り立たず、特に精神科は他職種との連携が絶対に必要です。嬉野温泉病院はスタッフの数も多く他職種との連携がしっかりしており、また新病棟も出来た事でより設備も充実され、患者さまに魅力的な医療を提供できる病院だと思います。そんな魅力ある病院で勤務させて頂いていただくことになり身が引き締まる思いで一杯です。未熟者ですが誠心誠意患者さまと向き合っていきたいと思っています。宜しくお願い致します。



友朋会の理念 『患者さまのために』

基本方針

- 1 患者さま一人ひとりの立場になって、提供すべき医療・福祉を考え実践する
- 2 愛情のある医療・看護・介護・リハビリ・福祉を実践する
- 3 患者さまの退院支援・生活支援・就労支援において更なる向上を図る
- 4 芸術療法を実践する
- 5 治療空間としてアメニティーを重視する
- 6 地域に必要なとされる医療を実践する
- 7 認知症への取り組みにおいて地域のリーダーとなれるよう努力する
- 8 児童・思春期の精神医学分野においてその専門性を高める
- 9 院内におけるチーム医療および地域の関係諸機関との連携を強化する
- 10 医療従事者として自己研鑽に精励する

職業倫理に基づく行動指針

- 1 患者さまの自己決定権を尊重する
- 2 患者さまが自己の情報を知る権利を保障する
- 3 患者さまがセカンドオピニオンを求める権利を保障する
- 4 患者さまに安全で質の高い医療を提供することに最善を尽くす
- 5 患者さまに医療的な説明を十分に行う
- 6 患者さまに治療に関する同意を確実に得る
- 7 患者さまの「基本的人権」を保障する
- 8 患者さまの尊厳を保つ
- 9 患者さまの終末期医療について理解を深め、その実践に努力する
- 10 患者さまの個人情報を守る

診療科の紹介及び診療担当医師一覧表

*診療時間 ◎月曜～金曜

◎午前部/8:30～12:30(第1土曜 8:30～12:30) ◎午後部/13:30～17:00 ※ただし、水曜、金曜の眼科外来は10:00より開始

*休診日/第2・3・4・5土曜、日曜、祭日、年末2日、年始3日間

*予約診療/待ち時間短縮のため、予約診療とさせていただきます。ただし、新患、急患の場合は随時受け付けます。

日曜診療は精神科第2、第4日曜の午前中に予約診療を行っています。

平成24年5月1日現在

診療科		月	火	水	木	金	土	
精神科	新患	精神科一般 うつ病外来	谷口 菅高	吉本 三根	谷口 菅高	富松 奥	富松 奥	担当医
		もの忘れ	吉本・中山	松尾・中山	田中・谷口	田中・松尾	吉本・松尾	
		リハビリ	谷口		谷口			
		思春期	富松・三根・菅高					
	再来	富松 松尾	田中 谷口 藤巻	奥 中山	吉本 中山	三根 菅高	予約者のみ	
内科		榎	竹下	岡本	林原・榎	跡上	非常勤医師	
泌尿器科	午前	倉富	江原	倉富	江原	倉富	予約者のみ	
	午後	事前連絡	事前連絡	事前連絡	事前連絡	事前連絡		
透析センター		江原	江原・井上	江原・井上	江原・井上	江原・井上	井上	
眼科		崎戸(13時～)		崎戸(10時～)		崎戸(10時～)		
整形外科						非常勤医師 (11時～)		
皮膚科							非常勤医師 (午前のみ)	

*眼科の診療時間 ◎月曜日 午後のみ13:00～17:00 ◎水・金曜日 午前10:00～12:30 午後13:30～17:00

友朋会嬉野温泉病院歯科診療所は平成24年2月10日をもちまして閉院させて頂くこととなりました。長年にわたり賜りました皆様のご芳情に謹んで御礼申し上げますとともに突然の閉院でご迷惑をおかけします事を深くお詫び申し上げます。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。



医療法人財団 友朋会

〒843-0394

佐賀県嬉野市嬉野町大字下宿乙1919

電話:0954-43-0157

FAX:0954-43-3440

E-mail:info@yuhokai.com

URL:http://www.yuhokai.com/

- 嬉野温泉病院 0954-43-0157
 - 認知症疾患医療センター 0954-43-0003
 - リハビリセンター「ほほ笑み」 0954-43-0194
 - 老人デイケアセンター 0954-43-0233
 - 介護老人保健施設 朋寿苑 0954-42-2900
 - 友朋会介護サービスセンター 0954-20-2531
 - グループホーム 千寿荘 0954-43-0157
 - 就労支援センター「希望」 0954-43-0249
 - 地域連携室 0954-43-0255
 - 小規模多機能ホーム「孝心の里」 0954-43-7550
 - ものわすれメンタルクリニック 092-534-5151
- 〒815-0082 福岡市南区大橋2-19-20ピュアドームエレガント平尾3・4F